大切なパートナーを守るために知っておいて欲しいこと

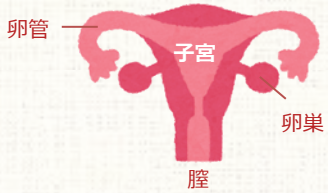
～「膣の自浄作用」について～

こんにちは。公立八女総合病院 産婦人科医 宮川三代子です。
今回は「膣の自浄作用」についてお話ししたいと思います。

「先生、発熱して下腹が痛いと言っている女性が救急外来に来ています」
スタッフからそう聞くと、産婦人科医である私は、いくつかの病気を思い浮かべます。

「男の僕には関係ないな」と思ったあなた。
そんなあなたにこのコラムを最後まで読んで欲しいと思います。
なぜなら、男性側の配慮一つで大切なパートナーを感染症のリスクから守ることができるからです。

膣の自浄作用



女性の体は、膣を伝って外部とつながっています。
膣から入った雑菌は、通常、自浄作用といって、自分で自分を綺麗にする作用により排除されます。

膣から入った雑菌が何らかの事情により排除されなかった場合は、子宮頸管を通って、子宮体部に及び、子宮内膜炎を起こします。
そのまま放置すると、内膜炎から卵管に及び、卵管炎や卵巣炎、そして腹腔内まで及ぶと腹膜炎になります。
これらをそのまま放置すると、腹腔内癒着の原因となり、不妊症の原因となることがあります。

膣の自浄作用があまり働かない事情

・閉経前後になるとエストロゲン（女性ホルモン）が下がるため。
・風邪をひいたり寝不足が続いたりして体調が落ちた時。
・高温多湿やナプキンの長時間使用時。
・清潔でない環境でセックスをした時。
・セックス後に膣を洗わなかった時　などがあります。

膣の自浄作用が働くための対策

女性の皆さんへ

・睡眠を十分とる
・シャワーを浴びた後など清潔な状態で性交渉する（終わったら膣を洗う）
・ナプキンをこまめに変える
・締め付けるような下着を止める

男性の皆さんへ

シャワーを浴びた後など清潔な状態での性交渉や屋外や不潔な場所での性交渉の回避、そして終わった後にパートナーがゆっくりとシャワーを浴びられるように配慮をお願いします。

あなたのちょっとした配慮で、大切なパートナーを感染症から守ることができます。
最後まで読んでくださりありがとうございました。

産科部長
宮川三代子

宮川 Dr.の
産婦人科
コラム(HP)

◆公立八女総合病院では職員を募集しています◆

「求人情報」ページは
こちらから

・薬　剤　師　（若干名／H6.4.2 以降に生まれた人で薬剤師免許証を有する人）
・言語聴覚士（1 名／S.59.4.2 以降に生まれた人で言語聴覚士免許を有し、言語聴覚士としての実務経験を通算して 5 年以上有する人）
・嘱託事務補助員（医療秘書）（若干名／年齢制限、資格等要件なし）
・嘱託事務補助員（放射線外来受付）（若干名／年齢制限、資格等要件なし）

＊詳細は＜総務課人事係＞までお問合せください＊